

プランレジュメ

●はじめに

今回のテーマは『TPP 全面合意の是非』としました。TPP(環太平洋経済連携協定)とは、アジア太平洋地域における高い水準の貿易の自由化が目標で、去年の 10 月に大筋合意に至ったものです。現在日本が他国と締結している FTA(自由貿易協定)の基本的な構成要素である物品の関税の撤廃・削減 やサービス貿易のみではなく、投資・競争・知的財産・政府調達等の非関税分野のルール作りのほか、環境・労働・「分野横断的事項」等と新しい分野を含む包括的協定として交渉されています。日本は 2013 年 7 月から交渉に参加し、交渉参加国 12 か国と 21 の分野について交渉中です。本ディベートの狙いとしては、メリットがデメリットを上回るかどうかを論理的に話し合うことが挙げられます。例えば、現在日本は、輸入農産物に対して、コメには 778%、砂糖には 328%など高い関税をかけて日本の農業を保護していると同時に、国産農産物輸出での農業の発展を図っています。TPP に参加すれば、締結国間の関税が撤廃されるため、国産の農産物の輸出が促進されますが、それと同時に輸入農産物の関税も撤廃され、農業の保護が出来なくなります。このような、貿易の自由化によるメリットが、デメリットを上回るものなのかどうかを話し合うことが、本ディベートの狙いであり、核です。また、関税についてだけでなく非関税分野も含め、本ディベートでは様々な点から TPP 全面合意の是非について議論します。

※また、現在 TPP 参加交渉中であるため、交渉内容が日々変化しており、ディベートにおける是非のバランス、範囲の広さなどを考慮して、本ディベートでは現状の TPP 参加交渉内容(方針)とは違うプラン・規約を提示しています。

●このテーマの意義

知識として

TPP は現在、大筋合意もなされ、以前よりも我々日本人に身近なものになってきました。また、現在グローバル化が進んでいる日本の社会情勢において、経済だけでなく、我々の私生活においても、大きなターニングポイントとなる政策です。このような、自分たちの生活に近い政策を学生時代に学んでおくことは、将来に向けての大きな糧になると考えます。

また、テーマとして【TPP】を学ぶことで現在の日本の農業や工業、医療など、様々な分野が今抱えている問題を深く、広く知ることが出来ます。このように、日本の産業についての知識を蓄えることも、日本の将来を担う我々大学生にとって大きな糧となると考えますため、このテーマは非常に意義があるものだと思います。

技能の上昇として

当たり前のことではありますが、「TPP の全面合意」について、賛成の意見と反対の意見どちらも存在し、一概にどちらが正しいかを言うことはできません。その両義性を持つテーマでは、自班が比較的優位であることを証明するために道筋を立てた「論理力」や、時豊富な発言内容により「発言力」の向上が見込め、さらにその発言を客観的に支えるための資料を集める「情報収集力」、そして、両義性を持つテーマを学ぶことで様々な視点から物事を見ることが出来る「多角的視点」の向上が狙えます。これらの技能は社会に出てから必要とされると考えるので、大学生のうちに鍛えておくことにたくさんの意義があると言えます。

ディベートの形として

「TPP の全面合意」は、多くの問題を内包しています。「農業」「工業」「医療」「高齢化」「グローバル化」「低所得者」「貿易」などです。これらについて自由に議論することで、現実的で多角的なディベートを行うことが出来ます。ディベートの形として、第三者が納得できる議論でないと意味が無いと考えているため、この自由なテーマには議論する意義があります。